

事例

01

ふれあうことで
地域を知る

地域子育て支援拠点かなーちえは地域と協働して、中学生のふれあい体験授業を行っています。生徒と親子の交流を通じて、お互いが地域で暮らす存在であることを感じ、まちで子どもを見かけたときの思いやりの行動につながることを期待されています。

まずはお互いの存在に気づき、つながり、理解して認め合うこと。それが誰もが安心して過ごせるまちづくりへの第一歩です。



小さな子どもは
苦手だと思っていたけど、
遊んでみたら楽しかった

どんなふうに接したら
いいのかわかった

かなーちえスタッフ▶



令和8年4月から

まちのこと、ちょっと気になる。
それ、もう仲間です。

特集

かながわ
支え愛プランかながわ支え愛プラン
キャラクター「がわちゃん」

(第5期 神奈川区地域福祉保健計画)

が始動します

計画期間：令和8～12年度

かながわ支え愛プラン(第5期神奈川区地域福祉保健計画)は、健やかに安心して暮らせるまちを目指して、区民の皆さんと区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザなどが協力して進めていく活動や取組をまとめた計画です。

神奈川区は、人口約24万6千人、世帯数約13万6千世帯、一人暮らし(単身)世帯が50%を超え、20歳代・30歳代の転出入が増加していること、市内で外国人が4番目に多い区であることなどが特徴です。(2025年3月時点)これらの特徴を踏まえて、地域の取組を進めていきます。

問合せ 事業企画担当 ☎411-7135 ☎316-7877

5年かけて目指すこと

基本理念

誰もが住み慣れた地域で、健やかに、
安心して暮らせるまちをみんなでつくろう

3つの柱

- 柱1 「ひとりぼっちにならない」まち
- 柱2 「みんながチカラを発揮する」まち
- 柱3 「様々なチカラがつながり合う」まち

第5期計画では、3つの柱に加え、下記の目標にも重点的に取り組みます。

子ども子育て世代に
やさしい計画多様性に対する理解、
多様な活動機会の創出デジタル技術の
活用

あなたのまちの、地区別計画。

区内21地区ごとに、見守り、防災、子育てなどについて、地域の取組を掲載しています。

お住まいの地区別計画を
ぜひご覧ください。



事例

03

楽しみながら
理解を深める

障害に対する理解不足や偏見があると、孤立や差別が生まれてしまうことがあります。こうした状況を防ぐため、区地域自立支援協議会啓発部会では、区民まつりなどで「点字」や「ボッチャ」の体験を行っています。楽しみながら障害について知ることが、障害の有無に関わらず、お互いを尊重し、支え合う地域の土台づくりにつながります。



事例

02

安心できるつながりを
地域にも広げる

多文化共生ラウンジでは、外国につながる子どもたちが安心して過ごせるよう、さまざまな取組を行っています。学習教室では、一人ひとりの思いに寄り添い、誰にとっても「ほっとできる居場所」を目指しています。お互いの文化を尊重する活動は、高校生や大学生、地域ケアプラザ、地区センターなど、多くの協力で支えられ、地域での交流を広げています。



◀ICTを活用し、継続性のある丁寧な対応をしています



事例

04

デジタル技術で
もっと身近で便利に

自治会・町内会では、幅広い世代に活動を知ってもらうため、ICT(情報通信技術)を取り入れています。区が実施する「LINEの情報発信講座」やアドバイザー派遣を活用し、発信力の強化や事務作業の効率化を進める団体が増えています。

